

I P A 特集・世界に出版の輪を

世界の出版界の幹部が集まる I P A (International Publishers Association・国際出版連合) 第二十回大会がいよいよ五月末から京都で開かれます。

日本の出版は、知名度は高いがその社会的地位、経済的地位は低いのです。出版の先進国であるヨーロッパでは出版の地位は日本より少し高いようです。例えば英国のマクミラン氏は有名な出版社主ですし、第19回のバリ大会の名譽会長は亡くなったボンビドー大統領で、会議出席者全員をエリゼー宮の晩さん会に招待してくれました。そういうことで、日本の大会もレベルの低い会議をホストするわけにはいきません。

政府関係にも呼びかけ三木首相以下に名譽委員に就任して頂き、出版の関係団体、学界、報道界、その他の主だった方がたに、協力委員会のメンバーとして側面的に協力いただくことになりました。

出版を通じての文化振興のための国際会議ということで、政府からは補助金もいただけることになり、指定寄付の措置をとりつけることもできました。

先般の閣議の席で永井文部大臣から政府としても各省あげてこの大会に協力しようということが諒解事項として決定いたしました。

I P A とは何か

すべての学界でも業界でも団体があるように、I P A というのは

世界の出版社の協会であります。その国を代表する出版団体が加盟団体として加入するということになっております。

そもそも出版の成り立ちがそうであるように、出版の先進国であるヨーロッパの、出版社のサロンのな小じんまりした会として発足したものです。第一回は一八九六年から四年に一回開かれることになっております。時々出版界に緊急の問題が起きますと、ミニコング

世界に出版の輪を

— I P A 京都大会を成功させよう

下中邦彦

レスというところで、四年の中間の時期に実際のな会を開くこともございます。

ヨーロッパ出版社のサロンのな集まりとして出発した I P A ですが、出版が世界的に広がり、出版技術の進歩、そしてアメリカあるいは開発途上の出版が発展するにつれて、一九六五年の第十七回にはじめてこの大会が海を渡ってワシントンで開かれました。今回の二十回大会が日本で開かれるのはそれ以来はじめてだということ得意義があるといわれております。

す。

私も日本がこの大会に参加したのは、一九六二年の第十六回バールセロナ大会が初めてでした。その四年ほど前に、ヨーロッパ各国の出版界からの強い要請によって I P A のメンバーになりました。バールセロナ大会の参加者は千二百人くらいだったと思います。ご婦人の参加も非常に多く、黒い長い髪、大きな瞳というのが印象的でした。

スペインも非常にこの大会に力



を入れておりまして、大会が終了した後、亡くなりましたフランコ大統領が全員をマドリッドに一席招待してくれることになっていました。ところがその大会に、ポルトガルの代表が出席しておりまして、この代表がポルトガルの言論統制がいかにひどいかということ大会でアピールいたしました。こういうことをこの場所ではいえず、再び国へ帰れないかもしれない、自分の兄はポルトガルで新聞記者をしているけれども、その兄にも類が及ぶかも知れないというよう

京都大会への道のり

な熱烈な演説を行ないました。スペインにも検閲があります。スペインに対する非常な批判が、大会のムードのひとつの主流となりました。そのこともあって、フランコ大統領が怒って招待をとり止めてしまったということもあつたわけですね。

その次にワシントン、アムステルダムを経てバリ大会から今度の日本大会ということになるわけでございます。

日本にこの大会を招致することは、私がバールセロナの大会での特別招待のパーティー席上で、あいさつしたとき、「はじめて国際的出版の集まりに参加ができてうれし。日本でも次の次の次の大会ぐらには日本へご招待したいものだ」とほんのお世辞程度の演説をしましたところが、期せずして今回日本に大会が来ることになりました。そうしてロンドンのミニ大会のとき、正式に、適当な機会にこの大会を日本に招致したいということを申し入れたわけです。

当時は、日本が非常に離れているということ、大会の規約に、大会の開催国の協会の会長が、次の大会の会長に就任するという会長の廻りもちの規約があつたわけですね。となると、日本で大会を開くと、大会以降、日本の協会の会長が I P A の会長をつとめることになる、本部がジュネーブにあるの

出版年鑑'76

B 6 判・上製函入2300頁
定価 7,600円 千280

暦年編纂によるわが国唯一の出版・読書界の年鑑。新刊書籍22,727点、一般雑誌2,750点、学術誌3,985点、官庁誌381点、をはじめ、年表、各種受賞、諸統計、名簿(発行所・取次会社・出版関係団体・図書館・主要新聞社・広告代理店)他に関係法規、参考欄、巻末に書名、著読者名、雑誌名の各索引を付し、名簿類は最近の調査資料にもとづき正確を記した。情報収集・文献探索等に完璧を期した必備の年鑑です。

四月下発売予定!

101 東京都千代田区三崎町三の四
出版ニユース社

電話三・三六三・三三六・七
振替東京六六九五六番

に東京に住んで会長と事務局が離ればなれになってしまおうという不都合な問題が起きてきます。それからことばの障害もあるだろうというところで多分に懐疑的であったわけですが、野間会長が当時のルフェーヴル会長と事務局長のクチュモフさんの二人を日本の会議能力の有無をみてもらおうと招待したわけでした。

お二人にいろいろ案内し、説明しましたところ、非常に好感をもたれ、自信ももたれて、帰国後メンバーにむしろ日本開催を勧誘されるという空気が生まれてきて、パリ大会の閉会の際、次は京都で会いましょうということでも本決りになりました。

ちょうどルフェーヴルさんがお着きになる一週間前に、野間会長は病気で倒れたのです。今だに病床にあられますけれど、先日お会いしたとき、非常にお元気になられて、先ほど話したバルセロナの大会のことなども実によく憶えておられ、非常に力強く思いました。あるいは東京のさよならレセプションの時には車椅子で出席願えるかもしれないと感じたわけでございます。

さてパリ大会から帰国しましてすぐ書籍協会でもその準備を進めかけたのですが、一九七三年から七四年にかけての、いわゆるブツク戦争の責任をとって私が半年ばかり書籍協会の理事長を辞任したというところもありまして、その後お役目を仰せつかったからやと準備

にかかったというのが現状でございます。

■勧誘に世界各国を行脚

昨年中私は、京都大会のPRのために六度ほど海外へ参りました。これは表敬訪問と申します。京都の大会には是非出席してほしいということをお願ひしてまわったわけ

です。四月にはIPAの執行委員会と国際委員会がフランクフルトで持たれたので、それに出席したあとヨーロッパの主要な国六か国とアメリカ、カナダをまわって帰りました。九月にはソヴィエトへ行き、ひと月置いてから、フランクフルトのブックフェアを機会に開かれた委員会で京都大会の骨格を決定したあと、北欧四か国とバルセロナを訪問。

それからフランクフルトの期間中、みなさんが集まったところで説明会を開いて出席を要請したこともございました。カナダでは昨年の五月から新しくモントリオールブックフェアが開催されました。

その終了後、カナダ大使の奈良さんにおねがいして、大使館主催の、京都大会のためのレセプションを開催していただきました。その席で奈良大使からも、日本の政府も京都大会を全面的にバックアップしているのは是非きいてほしいとあいさつしてもらいましたし、IPA会長のブーンさんと私から

もご挨拶申し上げました。

秋のフランクフルトブックフェアでは、ちょうど大使の交代時期で、レセプションは大使館主催という形では実現しませんでした。書籍協会主催で開催し、予定より二倍以上の参加者が集まって、時間が過ぎててもなかなかお帰りにならないという非常な盛況でございました。

その席で私も、ごく短いスピーチをいたしました。「みなさんはこのフランクフルトへ著作権の売買にいられていることを私は知っています。私がここに来た最終の目的は、IPA京都大会をプロモートすること、日本は非常に遠くて、金もかかるし不便だが、日本のオルガナイゼーションとホスピタリティは世界的にも有名だから、日本にいらつしやれば、その両方を充分に経験することができましよう。」と話すとき非常に拍手がわきました。

もう一つ、「今は不況で遠くに旅行するにはあまりいい時期ではない、とおっしゃるでしょう。景気の動向を占うのはむづかしいけれども、もし景気をコインで占って、コインの片側が裏と出て、不況が大会の時期まで依然として続くのなら、みなさんは京都に、われわれと一緒に参加していただくに十分な時間と暇がおありになるでしょう。また、コインの表が出ることを私は望むけれども、来年の大会の時期、日本の春までにはこの不況の雲がきれいにふき

払われて、みなさんが出版で儲けた余計なお金は、日の昇る国でお使いになりたいと思うでしょう。」というふうな挨拶をいたしました。非常に拍手が多かったわけでした。

この会のもうひとつはブリッシャーズウィークリーに、「フランクフルトで毎年いろんな団体や社のパーティが開かれるけれども、日本の書籍協会の主催したIPA大会のレセプションほど、目だった顔ぶれが多数参加し成功した会はなかった」という編集長の評価と記事が紹介されておりました。春、秋二度の各国訪問を通じて徐々に大会のムードが盛り上がってきたようです。

■京都大会の意義

日本でIPA大会を開く意義は何かということですが、これはブーン会長が書籍協会で話された講演の内容につきるだろうと思います。大会の意義はまず、大会を開くこと自体の意義がある。メンバーが集まってIPAとしての活動方針、あるいは世界の出版の問題点などをめぐり出して、協力して世界の出版界をおし進めていくことに意義があるのだということをブーン氏はいっております。

それが、大会のもっている、非常に素朴ではあるが重要な問題点であろうと思います。

また、日本で開かれる意味は何かと申しますと、日本で開かれる

エディター叢書

現代の出版業

青木春雄著 青木書店会長

【内容】出版業の職能と機構 戦後出版の発展と企業動向 出版企業の現代的課題 出版生産と定価政策 現代の出版人 出版流通資本の生成と発展 出版流通改革論 B6判並製 函入・三二二頁 一六〇〇円

出版の諸相

市川角左衛門著 日本出版学会 会長・元岩波書店編集長

【内容】造本と図書美 出版業の生體 専門書の出版と販売の問題 翻訳書出版の系譜 戦時と出版 図書館界と出版界 一 編集者の思い出 B6判並製 函入・二三四頁 一三〇〇円

出版と著作権

美作太郎著 とくく問題になりやすい出版と著作権について、その定義づけから具体的な運用にいたるまでを、著者の豊富な経験に基づいて平易に解説した関係者必読の書 予一八〇〇円

エディター講座

出版編集技術 藤森善吉著 B5並製函入 七三頁 六〇〇〇円

校正技術 西島九州男監修 B5並製函入 英六頁 六〇〇〇円

出版会計

B5上製函入 三三頁 三〇〇〇円

レイアウト

基本編 多川精一編著 A4判変形 上製・函入 六六頁 五〇〇〇円

日本エディタースクール出版部 東京都新宿区市谷町一六 電二三〇六九一 振替東京四八六五

と決定されたこと自体に非常に意義があると思うのです。IPAの二十回の大会のうち、ヨーロッパを出たのはアメリカ一回だけです。それは一つには、アジアで開くことの意味を認めたこと、あるいはアジアの、世界の出版界における地位を認めたこと、日本の出版界の力なり地位なりを認めたこと、ということであります。

確かに、いま世界の出版界のかかえている問題は、世界が、地球が抱えている問題と同じだと思えますけれども、非常に多岐多様複雑です。

一例を申し上げますと、私たちがはじめて大会に参加した当時から、開発途上国の出版開発の問題がアビールされておりましたが、バルセロナ大会では、欧米の出版社の反応は非常にクールだったのですが、ワシントン、アムステルダム、パリと回を重ねるごとに、その要求は緊急になって参りました。

アムステルダム大会では、インド、韓国と私も開発途上国に対する応援演説をしました。既に先進国間の出版交流だけでは飽和状態で、新しい開発をしないと出版の輪が世界に拡がらないのだというところが、潜在意識として動いて、このアジア、日本で開催ということになったということだろうと思います。

もうひとつブーンさんがいわれることは、例えばイギリスの閣僚で本を書かない人はいないといわれるように、出版人というのは社

会的にも教養的にも立派な人たちだ。そういった各国に影響をもつ千人もの人たちが日本にくること、何千人の大使を日本に送ること、に等しいのだ、という意味のことをおっしゃっています。まさにその通りだと思います。大会で討議される内容は別に、そういった副次的なメリットというのは大きいと思います。

ブーンさんはまた、こうもいわれています。大会がヨーロッパ中心であったということはヨーロッパの閉鎖主義とか愛国主義からきたものではなくて、実際に文化がヨーロッパ中心であったからにはならない。それがアジアで開かれることになる、出版のレベルがヨーロッパの水準にあるかどうかは別にして、非常な励ましになるであろうと。

■重要な大会の議題

今度の大会でも、開発途上国の出版をどうするかという一つの極と、もう一つは、数年来世界の出版界の重要問題になっているフォトコピー(複写複製)の問題があります。複写機の進歩によって、非常に手軽にコピーできる。図書館、大学などでは野ばなしになっておりまして、本から自分の必要な部分だけ自由にコピーしてしまうのです。ただでさえ発行部数の少ない出版の困難な専門図書の普及が、フォトコピーの普及によって脅かされているのです。これが

進んでいきますと、フォトコピーすべきもとの書物が発行不能になるという恐れがでてくることになりそうです。

この問題を法制化する動きが、フランス、ドイツ、スエーデン、デンマークなどで現われ、いろいろな試行錯誤が行なわれておりましてけれども、まだこれといった解決が得られておりません。

一方、開発途上国の押上げと同様に、教育、知識というものは万人のものだという、考え方があります。例えば著作権の協定で、途上国の著作権を特別待遇しようではないかという声がある、ユネスコのPAが反対いたしました。一度そういうことをやれば、今までやって積み上げてきた著作権の精神がふみ破られてしまう。援助しなくてはならないということはおくわ

かるが、それは経済上の問題だ。その保証は国がやるべきだ、飛行機一機で充分なのだという考え方が。ところが途上国では著作権で援助してほしいのです。そういったことを話し合うにはIPA大会というのは非常にいい機会であろうと考えます。

■東欧からもオブザーバー

ユネスコ東京出版センターでは東南アジア各国の共通読物企画出版をすでに何点か発行しており、私はその中央編集委員会の議長をやっておりますが、そういうセン

ターができたきっかけになったのは一九六六年、アジア地域の出版専門家会議を開いたのが発端になったのです。本年ちょうど十周年にあたり、それを記念しての高出版専門家会議を開こうということで、時期をIPA大会に合わせることにしております。

その他、インターナショナル・ブック・コミティ(国際出版委員会)、IPAの中のサイエンティフィック・テクニカル・メディアカングループ(STM)の委員会、それから箕輪成男さんが会長のユニバーシティ・プレス(国際大学出版部会)の大会もこのIPA大会に合わせて開くということになっておりまして、文字通り世界の出版人が一堂に集まるということになり、そのメンバーに東欧諸国の出版人も多いだけにオブザーバーとしても多彩さを加えることになりそうです。

一九七六年という年はIPAにとっても記念すべき八十周年、第二十回大会を迎えるわけですが、二十世紀の最後の四半世紀であることにも私は重要な意味をもつと思います。動乱の二十世紀の締めをする最後のクォーターだと思っております。世界の政治的緊張だけではなくて、南北問題、公害の問題などもろのろのひずみが、この四半世紀の締めめの如何によって二十一世紀が見通しのあるものになるか、絶望的なものになるかの瀬戸際になるだろうと思うのです。同じような問題が世界の出版界

触れてみる。実感!



いいものをみるとすぐに触れてみたくなる。これ、人間の心理です。ダイニクのブッククロスは、ごらんになるだけでなく、存分にさわってください。きっとその良さがわかりいただけるにちがいありません。

DYNIC
CORPORATION

もう一つは出版情報、ソフトウエアの新しい開発です。先進国

“言論と出版によって表現される思想の自由は、人類の精神生活と精神活動の中樞をなすも

《講演要旨・文責編集部》
なおIPA大会についてのお問
合せは (268) 一三〇一 IPA
事務局へ

以上の目的達成のためにIP
Aは出版に影響をあたえるあらゆる問題を処理するために、必要な組織を置き、会議や大会を開催します。

IPA大会 第一回大会をパリで一八九六年（明治29年）に開催、第一次大戦中は休みましたが、各国持ちまわりで三〜四年に一回、第十七回のワシントン大会を除いてはヨーロッパで開催されてきました。日本の参加は一九六二年第十六回のバルセロナ（スペイン）大会からで、以来ワシントン（一九六五年）、アムステルダム（一九六八年）、パリ（一九七二年）とわが国の出版人も多数参加し、京都大会で第二〇回を迎えます。

東京 大阪 札幌 仙台 名古屋 広島 福岡 ニューヨーク 香港 シンガポール ソウル ジャカルタ シドニー ロンドン